

## 令和3年度 杉並区立四宮小学校の学校経営方針

### 1 目指す学校

言葉を磨いて 心をつなぎ 笑顔が輝く学校

人権尊重の精神を基調とし、真理と平和を追求し、自分の良さを見付け、自ら学び、考え、判断し、行動できる力をもった人間性豊かな児童を育成する。

- じょうぶな子                      心と体を一体として捉える健康教育
- かंगाえる子                      深く考え、共に学ぶ 主体的な学習
- すすんでする子                  諦めず学び続けたり取り組み続けたりする態度
- おもいやりのある子              自分も他者も大切にする「こころ」

### 2 目指す学校の実現に迫るキーワード



### 3 取組目標と方策

★令和3年度新規

	目 標	方 針	具体的な方策
徳	○人権尊重の精神の浸透	・自ら学び、考え、判断し、行動できる力（自己指導能力）の育成 ・深い児童理解に基づく共感的な学級経営の充実を図る。	・きまりの意義や価値の理解と生活規律の定着。 ・呼称、丁寧な言葉遣いの徹底。 ・いじめアンケートの実施。 ・いじめ早期発見、複数対応、丁寧な事実確認、早期解決。
	○豊かな心の育成	・道徳教育の充実を通して、よりよく生きようとする意欲の醸成を図る。（自己肯定感の向上）	・自分と向き合う道徳授業の充実。 ・校内研究道徳科全員授業。 ・自他の存在を認め、互いを大切にする挨拶の習慣化。
	○よりよい人間関係の構築	・自他の存在を認め互いを大切にする意識を醸成する。 ・自治的な学校学級づくりを推進する。	・心をつなぐ「挨拶、感謝、応援、役立つ」の行動化の推進。★ ・多様性への寛容、互いの良さを認め合う居心地の良い学級づくり。 ・「四宮小あいうえお」の浸透。 ・児童が参画する学校づくり。当事者意識の醸成。自己決定の尊重。 ・児童が主体となる児童会・学級会活動の推進。 ・異学年交流を通したリーダーシップ、フォロアーシップの育成。

知	○主体的・対話的・深い学びの充実	・ICT活用による個別最適な学びと協働的な学びを推進する。	・一人一台TBを有効活用（ロイロノート他、学習アプリ）
		・双方向のコミュニケーションの充実を図る。	・「的確に聴く」と重点とした言語活動の質的向上★
	○専門性の高い指導の実現	・教科担任制、交換授業を推進する。 ・専門講師による専科教員を採用する。	・高学年理科・社会科の教科担任制導入★ ・高学年外国語科専科制導入★ ・算数（5,6年）、音楽科（2,3,4年）、図工科（1,3,4年）専門講師の採用
	○自律的な学習者の育成	・学習生活規律を徹底する。 ・学習習慣を形成する。 ・自ら課題を見付けてすすんで学ぶ。	・「自学」の推進。家庭学習習慣の定着促進。 ・既習事項と関連付けた問題解決。
	○タブレット活用環境の整備	・一人一台タブレットの有効活用に向けた環境整備を迅速に行う。	・環境整備部門と学習推進部門の分業による機動性の向上。★ ・充電ボックスの有効活用（設定時間の変更）。★ ・不具合発生時の予備機対応（共有使用機の設定）。★
体	○健やかな体の育成	・運動習慣を形成し、体力向上を図る。	・体育授業の充実。外遊びの励行。
		・自他の命を守る行動の浸透を図る。	・感染症対策、熱中症予防の徹底。
		・心身のバランスのとれた健康づくりを推進する。	・基本的な生活習慣の定着。
特別支援教育	○個に応じた指導の充実	・不登校を改善する。	・前年度比5割。定期面談、諸機関との連携。★
		・組織的な支援体制の充実を図る。	・「報告連絡相談」の徹底。生活、学習等の適切な把握。 ・校内委員会を中核とした支援体制の構築。 ・通常学級支援員、介助・学生ボランティア等の人材を活用した学級支援の充実。 ・巡回相談員、特別支援チーム等の専門家及び関係機関との連携。 ・パワーアップ教室の開催（7月）
		・課題を焦点化した巡回指導の充実を図る。	・巡回教員と担任との密な情報共有、連携強化。
		・インクルーシブ教育システムへの理解を図る。	・個に応じた支援方法の充実を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校支援本部との協働体制を推進する。	・学校支援本部ボランティア（図書、環境）と児童会活動との協働。★ ・外部人材を活用した体験型授業の充実。
		・70周年記念行事を生かして地域連携を推進する。	・11/20（土）創立70周年記念式典の挙行。
		・学校ホームページを活用した情報発信を推進する。	・「しのみやニュース」週1回以上の更新。
		・幼保小中連携を推進する。	・井荻中学校、桃一小学校と連携したインクルーシブ研修会の実施。★ ・四宮保育園、四宮森児童館と連携した連絡会の実施。
	○働き方改革の推進	・教員一人あたり持ち時数を削減する。	・余剰年間授業時数を削減。★ ・教科担任制による教材研究時間のスリム化。★ ・講師時数の有効活用。
		・教員在校時間削減を推進する。	・前年度比9割の達成。★ ・見通しや優先順位を考えた職務履行。 ・ICTの有効活用。 ・カリキュラム・マネジメント（棚卸し）の推進。
		・組織への貢献、職責の自覚を高める。	・分掌一役2人体制による職務の確実な履行。
		・協力体制の充実を図る。	・副担任制を導入し、チームで学年経営を行う。★ ・交換授業の実施。
	○人材育成の推進	・授業力、教師力の向上を図る。	・意図的、計画的なOJT、授業参観棟、相互研鑽の推奨。 ・管理職による年2回以上の授業指導。 ・月1回若手自主研修の実施。